

## 船舶ブリッジシステム特集 Special Issues Marine bridge system



海上機器事業部長  
新屋民保  
Executive of Marine  
Electronics Division  
Tamiho Shinya

## 船舶の安全航行と効率的な運行、安全な操業に貢献

### Contribution to safe navigation, efficient transport and safe operation

近年、世界経済の拡大に伴い船舶は大型化し、隻数の大幅増加による事故が多発、衝突と座礁防止は強く求められている。

海上機器事業部は常に先端技術をベースに、信頼と品質で創業以来快適で安全な航海と効率的な運航、安全な操業に貢献してきた。今回の特集では特に進化を続けている「船舶ブリッジシステム」について紹介するものである。

当社は衝突予防と自船位置計測用として、昭和27年開発以来、小型から大型まで多くの船舶用レーダを発売してきた。近年、航海で一番重要な衝突予防に重点が置かれるようになり、近距離性能を特に改善し顧客の期待に応えている。

座礁防止用として測深器はもちろん、現在GPS航法装置と電子海図表示装置（ECDIS）は大変有効な装置である。大航海時代より自船位置は大変重要なものであり、当社は電波航法装置としてロランAから始まり、GPS航法装置まで時代に沿った航法装置を高い技術力により開発販売してきた。

電子海図表示装置（ECDIS）は、航法装置より自船位置情報を受け取り、電子海図上に自船位置を表示すると共に電子海図水深情報と照合し、座礁の可能性を人に代わり常に監視、座礁の可能性がある場合、事前に航海士に警告する機能を有している。また、自動航行機能や他船情報として、船舶自動識別装置（AIS）等から多くの航海情報を表示することが可能となった。

船舶通信は、一世紀近く高度な技術を持つ通信士によるモールス通信が主力であったが、無線通信技術の向上と人員削減を目的に平成11年終焉を迎えた。その代わりに台頭したのは衛星通信である。静止衛星や周回衛星を介し電話、E-Mailと更に進化を続け、陸上と同じ環境を求め様変わりしている。

当社はインマルサット静止衛星を利用して電話、テレックス、FAX、ISDN通信、データ通信を可能とする全ての装置を国内唯一、製造するメーカーである。

インマルサットは、2007年11月19日から電話と最大432kbpsのデータ通信を同時に使用できるインマルサットFB（フリーブロードバンド）サービスを開始、当社はFB250用装置を世界に先駆けて開発、発売を開始した。

今後航法装置や船舶用通信装置は、それぞれが持つ固有機能だけでなく船内の多くの情報を統合し、益々操作性と機能を高めたシステムとなっていくものと思われる。

海上機器事業部は高い技術力をさらに磨きをかけ、お客様の立場に立った製品開発に邁進していく。